

八綱弁証

表・裏	熱・寒	実・虚	陽・陰
裏	熱	実	陽

気血津液弁証

気	血	津液
気滞 +気逆?	血瘀	—

臓腑弁証

肝:気鬱→化火

証

肝気鬱滞→肝火上炎

治法

疏肝解鬱

方剤

加味帰脾湯(+桂枝茯苓丸)

病因・病機(メカニズム・ストーリー)

プロブレムリスト

- | | | |
|----------------|--------------|------------|
| 1 不正性器出血(凝血塊) | 2 イライラしやすい | 3 動悸 |
| 4 暑がり | 5 汗が出やすい | 6 食欲亢進 |
| 7 労作時息切れ | 8 目のギラつき | 9 肥満 |
| 10 軽度胸脇苦満 | 11 口渇 | 12 舌胖大 |
| 13 舌下静脈怒張 | 14 腹力有力 | 15 腹直筋軽度緊張 |
| 16 脈は沈・滑・弦で有力 | 17 月経痛(今はない) | 18 臍傍圧痛 |
| 19 便秘(-),下痢(-) | 20 季節性なし | |

①仕事が増えたことによるストレスから肝気鬱結が生じた

・イライラしやすい・臍傍圧痛・腹力有力・腹直筋軽度緊張・軽度胸脇苦満・滑弦脈

②ストレスが慢性化し、気鬱が化火し、肝火上炎に

・動悸・暑がり・汗が出やすい・目のギラつき(肝は目に開竅する)・口渇

③肝の失調に巻き込まれて様々な症状が噴出

- ・血瘀：舌下静脈怒張や凝血塊・疏泄失調：不正性器出血や月経痛(不通即痛)
- ・相克の失調による脾機能亢進：食欲亢進や肥満
- ・肝火上炎に巻き込まれての気逆様症状(あるいは相侮)：腎不納気様の労作時息切れ

④本治(疏肝解鬱)としての加味逍遙散(+標治としての桂枝茯苓丸)

鑑別上の重要点

- ・口渇はあるが便秘(-)、腹部の張りなし、舌胖大で皮膚は湿潤、汗かき、滑脈
- 陰虚(虚熱)ではなく実熱
- しかも熱証・実証は上半身に集中しているのがポイント
- ・不眠や不安などはない
- 心の病症はない。動悸は肝火上炎のため
- ・喘息や咳嗽はなく、尿量も十分
- 労作時の息切れは腎不納気様ではあるものの、腎の失調はないため、やはり肝火上炎によるもの(色が濃いのは熱証)